

熊本市の漁港

本市の漁港は、主に沿岸の河口域に形成されています。これらは、熊本市内から有明海に注ぐ河川の河口域に古くからあった船だまりが、漁港として発展したものです。天明漁港のように河川の中に形成された漁港が見られるのも、有明海沿岸の特色の一つです。本市ではノリ養殖業や採貝業・網漁業が行われていますが、使用されている船は有明海の大きな干満の差に適した5トン未満の小型漁船が主流です。

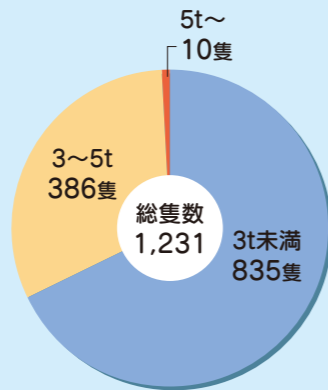
漁港は、新鮮な水産物の安定供給に役立っているんだよ。



「漁港」とは

漁業の根拠地となっている港で、漁獲された水産物の陸揚げや出漁準備の場として、また、漁船の安全な停泊の場として重要な役割を担っています。さらに、周辺地域の野外集会や公共の催しなどのために空間を提供して、地域社会の活性化にも寄与しています。

熊本市管理漁港 四番漁港、海路口漁港、天明漁港
熊本県管理漁港 塩屋漁港



【熊本市の漁船数】
(資料：平成28年港勢調査)



省力化、利便性を考慮した漁港の整備（四番漁港）

漁船が利用している港としては、このほかに熊本港、河内港（河内町）、百貴港（松尾町・小島町）があります。

漁港の風景

よんぼん 四番漁港（沖新町・畠口町）



河口を利用した漁港（除川）

漁船数	267隻
生産量	6,230t
産出額	2,040百万円

うじぐち 海路口漁港（海路口町）



河口を利用した漁港（千間江湖川）

漁船数	111隻
生産量	896t
産出額	301百万円

てんめい 天明漁港（海路口町・川口町）



河川の中にある漁港（緑川・天明新川）

漁船数	235隻
生産量	1,533t
産出額	547百万円

しおや 塩屋漁港（河内町）



入り江を利用した漁港

漁船数	109隻
生産量	1,619t
産出額	515百万円

(資料：平成28年港勢調査)

熊本市の水産資源増殖への取り組み

水産資源増殖

熊本市では、漁業協同組合（漁協）と協働し、水産物の安定供給の確保と水産資源の維持・増殖のために、様々な努力を行っています。

例えば、ヒラメ、カサゴ、クルマエビ、ガザミなどの種苗放流です。クルマエビの稚エビ放流については写真のように、約5cm前後の人工種苗を特殊なサイホンなどを使って、市地先漁場（海底）に放流しています。

その他、イカかご漁では、漁場のイカが減らないようにするため、イカを漁獲した後、漁具に付いた卵を再び海に返すなどの地道な努力も行っています。



サイホンを使うと稚エビが海底にもぐりやすくなるんだね。

漁具の一部（竹シバ）に付いたイカの卵



サイホンにより稚エビを海へ放流



稚エビ



稚エビを海へ放流



有明海特産物のアサリ、ハマグリ

有明海の特産物であるアサリ、ハマグリは、漁獲の安定化のため漁協を中心に様々な取り組みがなされています。漁獲する大きさ、量、時期、場所などを制限することで資源を管理したり、保護区を設定して産卵するアサリ、ハマグリを守っています。また、干潟の耕うんや覆砂といった漁場の整備を行っています。



【保護区の設定】

稚貝が増えるよう、保護区をつくり、産卵する母貝を保護しています。



【漁場調査】

実際に漁場に行き、アサリ、ハマグリの子息量や干潟の状態を調べています。



熊本の海で育まれた天然の稚貝です。

【漁場の整備：耕うん】

干潟の表面を耕すことで、余分な泥を流し、アサリ、ハマグリなどの生物が潜りやすく生息しやすい環境に整えます。



鍬を使った干潟耕うん



耕うん機を使った干潟耕うん